

2月17日 九条の会学習会報告（概要）

「九条の会」事務局主催「菅政権の成立と改憲問題の新局面」—改憲発議阻止のために—2月17日の午前、東京文京区民センターで、「九条の会」事務局主催の学習会が開催されました。コロナ下ということもあり、参加者は事前申し込みで、定員の半分に制限されました。

司会挨拶は小森陽一九条の会事務局長。講演は布施祐人さん（ジャーナリスト）の「バイデン政権の成立と日米軍事同盟」。前田哲男さん（軍事評論家）の「敵基地攻撃能力保有策動の狙いと憲法9条」でした。

共通した内容なので両者をまとめてみました。

- ・ アーミテージ REPORT とは、=米シンクタンク戦略国際研究所（CSIS）が発行。アーミテージ元国務副長官（共和党）と、ジョセフ・ナイ元国防次官補（民主党）が中心となった超党派の提言書。
- ・ 5次 REPORT (2020年) = 「日本は必要不可欠で対等な同盟国となった」「米国と日本は今日、歴史上かつてないほどお互いを必要としている」「アメリカの外圧の時代から日本のリーダーシップへの大きな転換」。集団的自衛権の行使容認（安保法制制定）と「自由で開かれたアジア太平洋構想」を提唱した安倍政権を称賛。「アメリカと日本は、中国の台頭を制御するために必要な地政学、経済、技術、ガバナンスという4つの戦略的分野のすべてにおいて不可欠な国」。防衛費1%を問題視、反撃能力（Counter Strike=敵基地攻撃能力）とミサイル防衛、日米及び内部の指揮系統が今後の課題。中国を包囲し台湾を死守するため、第一列島線（日本の南西諸島—台湾—フィリピン）の確保=中国を封じ込め、太平洋に進出させない。それらの国が一丸となって中国に対抗し、中国との大国間競争に米国が勝利する。
- ・ 第一列島線上の島々は、陸上自衛隊と米海兵隊と米陸軍 Multi Domain Task Force で死守。
- ・ 焦点は「台湾」。1月28日中国国防相報道官「『台湾独立派』に警告する。火遊びをするものはやけどする。『台湾独立』は戦争を意味する」。
- ・ 「自衛隊は2017年、台湾有事を想定した図上訓練を実施。防衛省関係者は『台湾有事における日米共同作戦は、3つ存在す』と話す」（2020. 7. 19朝日新聞）
- ・ 現実の動き
奄美大島～宮古島～石垣島に「ミサイル基地ネットワーク」の建設が進行中。
主装備—03式中距離防空用地対空誘導弾（中SAM）。12式地対艦誘導弾（巡航ミサイル）
鹿児島県馬毛島に陸海空自衛隊共有の「自衛隊馬毛島基地（仮称）」計画も進む。
栈橋、係留施設 滑走路（2450m 1830m）格納庫、火薬庫
辺野古新基地の「日米共同基地化」。陸自・水陸機動団第3大隊を配置で日米で密約。